

□日本ボランティア学習協会□
2023 年度事業報告

1. 研究活動

ボランティア学習の発展をめざしてつぎの研究活動を行った。

(1) 第 26 回『日本ボランティア学習学会・かながわ大会』の開催

- ①開催日時：2023 年 11 月 25 日（土）
- ②開催テーマ：「コロナ期のボランティア学習への新たな可能性を探る～社会と対話し主体性を育む深い学びとは～」
- ③運営主体：第 26 回『日本ボランティア学習学会・かながわ大会』実行委員会
- ④開催場所：神奈川県厚木市・松蔭大学ステーションキャンパス（ハイブリッド方式）
- ⑤開催事務局：松蔭大学・仲研究室
- ⑥参加者：59 名。
- ⑦開催内容：（概要）

開会式	協会代表挨拶	興梠 寛（日本ボランティア学習協会代表理事）	
	来賓挨拶	松浦広明（松蔭大学副学長）	
シンポジウム	テーマ「社会と対話し主体性を育む深い学びとは」		
	シンポジスト	高城芳之（NPO 法人アクションポート横浜）	
		大畑伸之（元・島根県益田市ひとづくり推進監）	
		齊藤ゆか（神奈川大学）	
コーディネーター	興梠 寛（昭和女子大学）		
自由研究発表	堤 拓也（佛教大学）「ワークキャンプにおける〈ゆらぎ〉の生成プロセスとその意義～参加者の感情変化に注目して」、甲野綾子（NGO SOCIA）「在外ミャンマー人ボランティアの意識変容～マイノリティからの視点」、二宮梨穂（ジュニアリーダー会）「双海町ジュニアリーダー会の活動」、森畑裕子（松山市社会福祉協議会）「いきがい交流センターしみずの活動」		
分科会	分科会「A」	《学生卒論発表分科会》	
		テーマ「実践や研究の成果をシェアして語り合おう！～学生ボランティアの可能性」	
		ファシリテーター	木下直子（桐蔭横浜大学）
	アドバイザー	齊藤ゆか（神奈川大学）	
	発表者	竹端晴菜「大学生が参加したくなるボランティアの条件」、浅野優翔「若者の対人関係能力はいかに向上するのか～地域活動の経験を通じた成長のプロセスに着目して」、箕輪実潤・山口圭佑「大学運動部の学生が地域貢献活動をする意義～体育会サッカー部の竹山プロジェクト」、直井友樹「ボランティア活動における『自己実現』の誘発—活動参加後の日常生活の次元に着目して」他、桐蔭横浜大学、神奈川大学学生	
	分科会「B」	テーマ「子どもたちや若者が参画する地域づくりと社会教育～大畑伸幸とさらに語り合おう」	
ファシリテーター		橋本洋光（亜細亜大学）	
アドバイザー		大坪直子（体験活動ボランティア活動総合推進センター）	

	シンポジスト	大畑伸幸（元・島根県益田市ひとづくり推進監）「シンポジウムの発言を通して」、佐伯美華（横浜市幸ヶ谷小学校・幸ヶ谷共育倶楽部代表）「子どもたちが主体的につくる学校図書館『りんご棚』～法律は町と暮らしをどのように変えるか、読書バリアフリー法を学んで」	
分科会「C」	テーマ	「世界と対話し市民性を育むボランティア学習のすすめ方」	
	ファシリテーター	八木浩光（熊本市国際交流振興事業団）	
	アドバイザー	興梠 寛（昭和女子大学）、中野 充（新潟青陵大学）	
	発表者	《発表1》高本いろは（熊本県立必由館高校）・Magdalena Mrzigod（まぐだれな・むじごと）（熊本県国際交流振興事業団）「国際ボランティアワークキャンプ（ボラキャン）で高校生が学んだこと～高校生自ら、企画、計画、運営する取り組み」、林 錦園（りん・きんえん）（にじいろ探検隊・なか国際交流ラウンジ若者人材育成地域連携強化コーディネーター）「誰もが幸せに暮らせる多文化共生社会に向けて」	
まとめの意見交換会		ファシリテーター：名賀 亨（京都華頂大学・華頂短期大学）	

(2) 研究紀要『ボランティア学習研究』（第24号）の編集と発行

会員のための研究発表の場として、研究紀要『ボランティア学習研究』（第24号・2023年度版：82頁、150部）を編集し発行した。

① 応募研究論文等を『研究紀要編集委員会』で審査・査読を行い掲載した。

研究紀要の発行までの編集スケジュール（予定） ※日程の変更有	①論文・実践報告の応募希望受付締め切り	2023年6月20日
	②論文・実践報告の原稿提出締め切り	2023年8月30日
	③応募論文の審査結果通知	2023年11月10日
	④研究紀要の発行	2024年3月下旬

② 応募論文や実践報告の他、現代的な研究テーマを設定した課題研究、自由研究、会員投稿、書評などを研究者・実践者の多様なニーズに応じて編集し掲載した。

コラム	内容	執筆者
基調講演	島根発信～地域共生社会の地域づくり、人づくり	松村健次
シンポジウム	「地域共生社会のボランティア学習」～多世代がつながる地域づくり、人づくり」	藤原睦己、吉山 治、石田洋子、興梠 寛、余村 望
分科会	第1分科会「企業やNPO法人」が地域拠点となって次世代につながるボランティア活動」	山本寿子、柴崎あい
	第2分科会「公民館・交流センター等の地域づくりボランティア活動」	山口信夫、馬場祐次郎
	第3分科会「災害ボランティアの重要性と展開～明日、起こるかもしれない災害に向けて」	林 繁幸、栗田允治
	第4分科会「ボランティア学習で、子どもたちが動き、大人が動き、ひとづくりの好循環、地域づくりの盛り上がりを創り出そう！」	大畑伸幸、大坪直子
	第5分科会「社会福祉協議会がめざす“人づくりから地域づくり”への『福祉の学び』とボランティア学習の姿を共有する」	田原秀樹、立柳 聡
アレックデイクソン賞	〈特別寄稿〉（2023年度受賞者）『田鶴浜地方史の会』実践報告	舘田健治・作井英之
自由研究	「経験学習としてのボランティア活動シティズンシップ（市民性）変容～危機を経たミャンマー人ボランティアへのインタビュー分析から」	甲野綾子

	市民の社会参加を促す社会教育職員の専門性に関する一考察	山本竜司
書評	「平和のバトン～広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶」 (弓狩匡純著・広島平和記念資料館協力)	栗田允治
その他	会務報告、会則、アレックディクソン賞推薦要項・投稿規定	

③2022年4月から紀要編集の実務を担当する紀要編集事務局を松蔭大学（仲 伯維研究室）に設置した。

(3) 会員の教材出版への支援

会員の実践や研究の成果を教材等に編集・出版し社会に提供するための支援を行なっている。

①申込み	会員（執筆者）が出版計画を送付し申し込む。
②出版認証	『広報出版委員会』が出版を認証し、執筆へのアドバイス等を行う。
③制作委託	執筆者は、本の編集・制作を『広報出版委員会』に委託する。
④発行	発行元（著作権者）は協会とし、執筆者（著作権者）は会員とする。
⑤買い取り	完成本は、執筆者が買い取ることを条件とする。
⑥販売支援	公式ホームページ、学会、会員への広報等を通して販売を支援する。

※2023年度の申請者はなかった。

2. 人材養成

幼・小・中・高等学校や大学、社会教育等の教育関係者、行政機関、NPO・NGO、企業関係者などを対象に、人材養成のためのプログラム開発や運営への助言等を行った。

(1) ボランティア学習研究フォーラムの検討

協会の『事務局運営会議』で『ボランティア学習研究フォーラム』『ボランティアジャンボリー』（高校生・大学生のための交流集会）、『卒論発表会』（対象：大学生）などの協議を行った。

(2) 講師の紹介・派遣

ボランティア学習の推進に関する講師派遣への協力や講師の紹介等を行った。

(3) 後援および協力団体等としての支援

『熊本市国際交流振興事業団』が主催し、高校生実行委員会が企画運営する、第18回『国際ボランティアワークキャンプ in Aso』（2023年8月16日～18日、会場：国立阿蘇青少年交流の家）に協力団体として参加した。

3. 情報提供

協会活動の広報や会員への情報提供などを行った。

(1) 公式ホームページ『Volunteer Learning Web』を活用して広報活動を行った。

(2) 会員を対象に、会報『Volunteer Learning』（年2回）を発行した。

4. ボランティア学習を顕彰する『アレックディクソン賞』の授与

“世界のボランティアの父”アレックディクソン博士の功績を記念した第18回『アレックディクソン賞』（2022年度）を授与し、優れた実践者、推進者、若い研究者を顕彰した。

(1) 実施主体

①日本ボランティア学習協会『アレックディクソン賞選考委員会』による選考を行った。

②受賞者には、賞状および協会特製の記念オブジェを授与した。

(2) 『アレックディクソン賞』授与の各部門と選考方法・対象について

部 門	内 容	選 考	対 象
ボランティア 学習研究部門	優れた研究活動を行った人や組織に授与	会員が『研究紀要』に応募した論文を対象に審査	40歳未満の研究者を対象
ボランティア 学習実践部門	優れた実践活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会審査	児童生徒・学生や組織等を対象

ボランティア 学習推進部門	優れた推進活動を行 った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考 委員会で審査	推進活動を行う個人・組織等を対象
------------------	------------------------	-----------------------	------------------

(授与する対象は、原則として各1名または1組織)

(3) 選考日程

	日 程	方 法
①会員推薦募集期間	7月1日～9月30日	会員による推薦方式で行い、ホームページや会報等で募集する。推薦締め切りは、9月30日。
②選考	10月初旬	『アレックディクソン賞選考委員会』で審査する。
③発表	10月末日	受賞者に通知し、協会ホームページ等で発表する。
④表彰	10月～12月	『日本ボランティア学習学会』開会式で表彰する。

(4) 2023 年度の受賞者

『アレックディクソン賞選考委員会』により選考した 2023 年度受賞者は下記のとおり。

2023 年度 受賞者	ボランティア学習研究部門	(該当者なし)
	ボランティア学習実践部門	双海町ジュニアリーダーの会
	ボランティア学習推進部門	森畑裕子 (いきがい交流センターしみず)

(5) 受賞者の表彰

受賞者には、第 26 回『日本ボランティア学習学会かながわ大会』で賞状および記念オブジェを授与した。

(6) 『アレックディクソン賞』を運営する基金を設けて寄付者を募集した

『アレックディクソン賞基金』を設けて、会員をはじめ個人や組織、財団、企業等に賛助寄付（個人一口 1,000 円、組織一口 100,000 円）を募り運営の財源にあてた。

5. 調査研究とアドバイザーサービス

会員が中心になり、ボランティア学習をはじめ、サービスラーニング、市民教育、生涯学習、地域学校協働活動などの推進や学校教育や社会教育の現代的課題に応えた先駆的教育モデルを調査研究し、教育機関等に情報提供や助言を行った。

6. 国際交流

ボランティア学習の発展に寄与するために、つぎの国際交流活動や海外情報の収集・提供を行った。

(1) 『日英ギャップイヤー計画』 (Japan-UK Gap Year Project)

英国の『Project Trust』との提携により「ギャップイヤー・ボランティア」(Gap Year Volunteer)の日本側受け入れ窓口として、活動先の募集、ボランティアの研修、活動先への助言などを行う。

2023 年 9 月～2024 年 8 月までの活動先は、『洞爺湖町国際交流協会』(北海道)、『順天中高等学校』(東京都)、『一燈園・燈影学園』(京都府)の 3 か所。また、2024 年 1 月～8 月までの活動先は、『はんしん自立の家』(兵庫県)、『興望館』(東京都)の 2 か所。ボランティア活動先では、2名1組・計 10 人が活動中である。

(2) 国際交流情報の提供

会員を対象に、海外のボランティア学習に関する海外の研究情報や国際交流窓口を紹介した。

7. 政策提案

ボランティア学習の発展とよりよい社会環境の開拓のために、国及び地方自治体、関係諸機関の各種審議会や研究委員会等に参加し、政策提言活動を行った。

8. 組織運営

協会活動の充実のために、つぎの組織運営を行った。

(1) 各種会議

会員総会、理事会、組織運営理事会で下記の審議を行った。

- ① 会員総会：5月14日にオンラインで開催し、2022年度事業報告・決算報告、2023年度事業計画・予算計画等を審議した。
- ② 理事会
理事会（2024年3月31日10:00～12:00）：オンラインで開催。

第14期役員（任期：2022年11月～2024年11月）		※所属・敬称略
理事	興梶 寛（代表）、栗田允治（副代表）、橋本洋光（副代表）、名賀 亨（副代表）、大坪直子（常任）、八木浩光（常任）、中野 充（常任）、立柳 聡（常任）、斉藤 睦（常任）、木村清一、齊藤ゆか、富永耕造、原田多美子、中家由紀子、今西幸蔵、高田 研、仲 伯維、服部英二、西尾雄志、高見大介、北見靖直、有里泰徳、磯田浩司、青山鉄平、馬場裕次郎、山本裕一、出口寿久、長沼 豊、鳥羽 茂、大畑伸幸、柴崎あい、木下直子、田中 人（以上33名）	
監事	甲野綾子、浅野和久（以上2名）	

- ③ 組織運営理事会：組織運営に必要な会議を随時にオンライン等で行った。

(2) 各種委員会の開催

委員会	活動内容
①『研究紀要』編集委員会	『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行った。
②『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考、および基金運営・財源の開拓などを行った。

(3) 会員の拡大

- ①理事が中心になり会員の拡大をすすめているが若い世代の参加の開拓が課題である。
- ②学校・社会教育関係者、NPOや企業などの多彩な分野の研究者・実践者の参加を募っていく。

(4) 財源の開拓

理事が中心になり会費収入、寄付金や補助金の拡大、事業収入等の開拓を行うことが課題である。

(5) 組織運営

組織運営のために首都圏の理事等を中心に役割を分担し、毎月1回程度の「事務局運営会議」を開催し組織運営を行った。また、必要に応じて事務を補助するアルバイト・スタッフを雇用した。

9. 運営体制（2023年度）

2023年度は、理事を中心に以下の運営体制や委員会をもとに組織運営を行った。

(1) 事務局運営体制

役割	内容	担当理事（◎印は責任者）
事務局長	事務局運営に関する総合的な連絡調整	栗田
事務局次長	事務局長を補佐し事務局運営にあたる	大坪
会計・会員担当	組織運営に関する庶務・会計・会員管理	◎大坪、橋本、中家
広報出版担当	ホームページ等による組織広報及び出版	◎中家、興梶
研究紀要担当	研究論文の募集・査読と紀要編集発行	◎服部、栗田、仲、池田
国際交流担当	ギャップイヤー計画の推進・国際交流	◎中家、興梶、立柳
ディクソン賞担当	アレックディクソン賞の運営	◎興梶、名賀、橋本、原田

(2) 常設委員会担当理事

（委員会）	（活動内容）	担当理事 ◎印は委員長
研究紀要編集委員会	会員を対象に『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う。	◎服部、栗田、馬場、今西、斎藤（睦）、池田、西原
『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考・基金運営・財源の開拓を行う。	◎興梶、橋本、讃岐、木村、服部、西尾

（以上）

**日本ボランティア学習協会
2023年度一般会計収支報告(案)**

1. 収入の部

項 目	予算額	決算額	内 訳
①会費	460,000	450,000	一般@5,000円×88名、学生@1,000円×10名
②寄付収入	20,000	15,000	
③販売収入	10,000	7,480	紀要・ブックレット販売
④事業収入	0		講師紹介等収入
⑤雑収入	3		利子等
⑥繰入金収入	573,505	573,505	前年度繰入金
	1,063,508	1,045,985	

2. 支出の部

項 目	予算額	決算額	内 訳
(1)事務局費	143,000	46,270	
①賃金	20,000	8,000	アルバイト賃金
②旅費	0	0	事務局・役員旅費
③印刷製本費	60,000	6,974	会報等の印刷
④消耗品費	10,000	0	封筒・紙・文具等
⑤通信運搬費	25,000	14,364	郵送費・各種連絡費
⑥借損費	0	0	会議室借用料等
⑦会議費	25,000	13,962	ZOOMライセンス料等
⑧雑費	3,000	2,970	振込手数料等
(2)事業費	630,000	395,265	
①研究紀要の発行	270,000	222,292	印刷製本費、郵送費
②ボランティア学習学会運営準備金	200,000	103,972	準備金、要項印刷・送料・文字起こし
③ギャップイヤー推進委員会		0	
④実践交流の場の提供	60,000	0	
⑤ホームページ運営費	100,000	69,001	サーバー契約、管理費、
(3)予備費	290,508	0	
支出合計	1,063,508	441,535	

収入合計

1,045,985

支出合計

441,535

残金

604,450 2024年度へ繰越

日本ボランティア学習学会 第26回 かながわ大会 収支報告

収入	決算額	内訳
協会事務局より	200,000	
参加費	14,500	1,000 (非会員) * 3 + 500 (会員) * 23 学生・登壇者は無料
収入合計	214,500	

支出		内訳
要項・大会資料印刷費	17,937	
郵送費等	22,800	
文字起こし	36,887	シンポジウムの文字起こし
交通費・謝金	37,000	5000 * 2 10000 * 1 (事例発表者2名・シポジスト1名交通費) 6,000 * 2 5,000 * 1 (受付担当謝金・交通費合計6,000円2名 会場担当謝金5,000円1名)
文房具等	1,480	宛名シール
雑費	2,203	会場校手土産・登壇者飲料水等
振込手数料	165	
支出合計	118,472	

支出額 103,972 支出合計11,847円 - 参加費合計14,500円
返金額 96,028

日本ボランティア学習協会
2023年度特別会計アレックディクソン賞基金収支報告(案)

1. 収入の部

項 目	予算額	決算額	内訳
①寄付金収入	50,000	28,000	
②雑収入	0	0	
③繰入金	383,596	383,596	アレックディクソン賞基金
	433,596	411,596	

2. 支出の部

項 目	予算額	決算額	内訳
アレックディクソン賞運営費	215,000	203,644	
①通信運搬費	5,000	4,500	賞品送料
②消耗品費	175,000	121,000	賞品、賞状ほか
③旅費	30,000	78,144	受賞者旅費
④雑費	5,000	0	振込手数料等
アレックディクソン賞基金	218,596	207,952	アレックディクソン賞基金として繰越
	433,596	411,596	

□日本ボランティア学習協会□
2024 年度事業計画

1. ボランティア学習研究活動

(1)第 27 回『日本ボランティア学習学会・愛媛大会』の開催

ボランティア学習の実践と研究の発展をめざして、愛媛県松山市で学会を開催する。

- ①開催期日:11 月 16 日(土)~17 日(日)
- ②開催場所:松山市総合福祉センター
- ③運営主体:第 27 回『日本ボランティア学習学会・愛媛大会』実行委員会

(2)研究紀要『ボランティア学習研究』(第 25 号)の編集と発行

会員による研究発表の場として研究紀要を発行する。

- ①課題研究・特別寄稿・自由研究・書評・研究情報等によって紙面構成する。
- ②会員を対象に研究論文や実践報告を募集し査読を行い掲載する。
- ③『研究紀要編集委員会』によって応募論文の審査・査読・編集・発行を行う。
- ④編集事務局を協会理事「松蔭大学・仲 伯維研究室」に置く。
- ⑤論文等の応募・編集・発行

『研究紀要』の応募から編集・発行までのスケジュール ※2024年度の予定	①論文・実践報告の応募と受付の締め切り	2024年6月20日
	②論文・実践報告の原稿提出の締め切り	2024年8月30日
	③応募論文についての審査結果の通知	2024年11月10日
	④研究紀要の編集と発行	2025年3月下旬

2. ボランティア学習推進活動

(1)『ボランティア学習研究セミナー』の開催

全国の学校教育・社会教育関係者や市民・学生を対象に研究セミナーを開催する。

- ①研究セミナーはオンライン開催を原則とし、受講者には『学会』を活用して交流の場を設ける。
- ②研究セミナーの実施のために『企画運営委員会』を組織し事業を行う。
- ③セミナー参加者には、ボランティア学習推進を支援するためのアドバイザー活動を行う。

(2)ボランティア学習を顕彰する『アレックディクソン賞』の授与

- ①“世界のボランティアの父”アレックディクソン博士の功績を記念した第 19 回『アレックディクソン賞』(2024 年度)を授与し、優れた実践者・推進者・研究者を顕彰する。
- ②『アレックディクソン賞選考委員会』による選考を行う。
- ③受賞者には、賞状および協会特製の記念オブジェを授与する。
- ④『アレックディクソン賞』授与の各部門と選考方法及び対象について

部 門	内 容	選 考	対 象
ボランティア学習研究部門	優れた研究活動を行った人や組織に授与	会員が『研究紀要』に応募した論文を対象に審査する	40歳未満の研究者を対象
ボランティア学習実践部門	優れた実践活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会で審査する	児童生徒・学生や組織等を対象
ボランティア学習推進部門	優れた推進活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会で審査する	推進活動を行う個人・組織等を対象

(授与する対象は、原則として各1名または1組織)

⑤選考日程

	日 程	方 法
①会員推薦期間	7月1日～9月30日	会員による推薦を募集し、締め切りは、9月30日。
②受賞者の選考	10月初旬	『アレックディクソン賞選考委員会』で審査する。
③受賞者の発表	10月末日	受賞者に通知し、協会ホームページ等で発表する。
④受賞者の表彰	10月～12月	『日本ボランティア学習学会』の開会式で表彰する。

※全国各地の優れた実践・研究を発掘し社会に顕彰するために会員からの広報・推薦をお願いします。

⑥『アレックディクソン賞基金』を設け、会員をはじめ個人や組織・財団・企業等に賛助寄付(個人一口1,000円、組織一口10,000円)を募り運営の財源にあてる。

(3)第19回『国際ボランティアワークキャンプ in Aso』への協力

『熊本市国際交流振興財団』が主催し、高校生実行委員会が企画運営する、第19回『国際ボランティアワークキャンプ in Aso』に協力団体として参加し、高校生によるボランティア学習研究・交流活動を支援する。

3. 国際交流活動

(1)『英国ギャップイヤー計画』(Japan-UK Gap Year Project)の実施

英国の『Project Trust』との提携により「ギャップイヤー・ボランティア」(Gap Year Volunteer)の日本受け入れ窓口として、活動先の募集、ボランティアの研修、活動先への助言などを行う。

2023年9月～2024年8月までの活動先は、『洞爺湖町国際交流協会』(北海道)、『順天中高等学校』(東京都)、『一燈園・燈影学園』(京都府)の3か所。また、2024年1月～8月までの活動先は、『はんしん自立の家』(兵庫県)、『興望館』(東京都)の2か所。ボランティアは、各活動先2名1組で計10人。

なお、英国『Project Trust』への日本受け入れ窓口支援は、本年度をもって終了する。

(2)ボランティア学習研究者や実践者のための国際交流への支援

会員等を対象に、海外のボランティア学習に関する調査研究情報や研修・交流先などの紹介などを行う。

4. 政策提案およびアドバイザー活動

(1) ボランティア学習の発展や社会的環境の開拓のために、国及び地方自治体、関係諸機関の各種審議会や研究委員会等に参加して政策提言活動等を行う。

(2) 幼・小・中・高等学校や大学、社会教育等の教育関係者、行政機関、NPO・NGO、企業関係者などを対象に、人材養成のためのプログラム開発や運営への助言等を行う。

(3) 会員の教材出版への支援

会員の研究・実践活動の成果を教材等に編集・出版し社会に提供するための支援を行なう。

①申込み方法	会員(執筆者)が出版計画を作成・送付し事務局に申し込む。
②出版の認証	『出版支援委員会』を開催して認証し必要に応じて執筆等へのアドバイスを行う。
③制作委託	執筆者は本の編集・制作を『出版委員会』に委託することができる。
④発行元	発行元(著作権者)は協会とし、執筆者(著作権者)は会員とする。
⑤買い取り	完成本は執筆者が買い取ることを条件とする(発行手数料は別途定める)。
⑥販売支援	公式ホームページや学会などの各種事業、会員への広報等で販売を支援する。

5. 組織推進活動

(1) 各種会議

① 会員総会

2024年5月26日(事業報告・事業報告・役員改選・各種委員の選任等)

② 理事会

第1回理事会:2024年・秋頃を予定(事業の中間報告・進捗状況や課題、学会準備状況等を協議)

第2回理事会:2025年3月下旬を予定(事業報告や決算、新年度事業計画や予算等を協議)

③組織運営理事会

代表、副代表、常任理事によって組織運営に必要な協議(随時)を行う。

④事務局運営会議

事務局運営担当理事により毎月1回程度の「事務局運営会議」を開催し諸事業の運営を行う。

(2)各種委員会の開催

委員会	活動内容
①『研究紀要』編集委員会	『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う。
②『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考、および基金運営・財源の開拓を行う。
③『ボランティア学習研究セミナー』運営委員会	ボランティア学習推進者を対象に『ボランティア学習研究セミナー』の企画・運営を行う。

(3)組織広報活動

協会活動の広報や会員への情報提供などを行う。

①公式ホームページ『Volunteer Learning Web』を活用して広報活動を行う。

②会員を対象に会報『Volunteer Learning』(年2回)を発行する。

(4)協会事務局の運営

必要に応じて事務を補助するアルバイト・スタッフを雇用し事務運営を行う。

6. 運営体制(2024年度)

2023年度は、理事を中心に以下の運営体制や委員会をもとに組織運営を行う。

(1)事務局運営体制

役割	内容	担当理事(◎印は責任者)
事務局長	事務局運営に関する総合的な連絡調整	
事務局次長	事務局長を補佐して事務局運営を行う	
会計・会員担当	組織運営に関する庶務・会計・会員管理	
広報出版担当	ホームページ等による組織広報活動等	
研究紀要編集担当	研究論文の募集・査読と紀要編集発行	
『ボランティア学習研究セミナー』担当	『ボランティア学習研究セミナー運営委員会』の企画運営活動	
ディクソン賞担当	『アレックディクソン賞』の運営	

(2)常設委員会・委員

委員会	委員(◎印は委員長)
研究紀要編集委員会	
『アレックディクソン賞』選考委員会	
『ボランティア学習研究セミナー』運営委員会	

(以上)

**日本ボランティア学習協会
一般会計2024年度予算(案)**

1. 収入の部

項 目	予算額	内 訳
①会費	435,000	一般5,000×85、学生1,000×10
②寄付	20,000	
③販売収入	10,000	紀要・ブックレット販売
④事業収入	0	講師紹介等収入
⑤雑収入	3	利子等
⑥繰入金収入	604,450	前年度繰入金
合計	1,069,453	

2. 支出の部

項 目	予算額	内 訳
(1)事務局費	103,000	
①賃金	10,000	アルバイト賃金@1,000×10
②旅費	0	事務局・役員旅費
③印刷製本費	30,000	会報、協会リーフレット作成費他
④消耗品費	5,000	インクカートリッジ・紙・文具等
⑤通信運搬費	30,000	郵送費・各種連絡費
⑥借損費	0	会議室借用料等
⑦会議費	23,000	ZOOMライセンス料
⑧雑費	5,000	振込手数料等
(2)事業費	600,000	
①研究紀要の発行	250,000	印刷製本費、郵送費
②ボランティア学習学会運営準備金	200,000	ボランティア学習学会大会
③実践交流の場の提供	50,000	研究セミナー等の開催
④ホームページ運営費	100,000	サーバー契約、メンテナンス費
(3)予備費	366,453	
合計	1,069,453	

日本ボランティア学習協会
2024年度特別会計アレックディクソン賞基金予算(案)

1. 収入の部

項 目	予算額	内 訳
①寄付金収入	80,000	
②雑収入	0	
③繰入金	207,952	アレックディクソン賞基金
合計	287,952	

2. 支出の部

項 目	予算額	内 訳
アレックディクソン運営費	121,000	
①通信運搬費	5,000	賞状送料
②消耗品費	85,000	賞品、賞状作成費
③旅費	30,000	受賞者旅費
④雑費	1,000	振込手数料等
アレックディクソン賞基金	166,952	アレックディクソン賞基金として繰越
合計	287,952	